

ぼく わたしが かがやくための「つなぐ」教育

～ESD（持続発展教育）の視点による

ARA・SHI（荒尾支援学校）の取組～

1 はじめに

ARA・SHIは、「ぼく わたし かがやいています」という言葉を大切にしています。これは子どもたちだけでなく、子どもたちにかかわる全ての人々が輝くことを意味します。ARA・SHIの教育及び研究の取組は、文部科学省が掲げる「生きる力」の育成に他ならず、ユネスコスクールが普及促進の任を担っているESD（※1）の理念にも適うものです。「つなぐ」というESDの視点から捉え直したARA・SHIの取組は、「ぼく わたし かがやいています」を実現するバックボーンとなっています。

2 時間軸で「つなぐ」取組

（1）研究の成果発表

今年度、3年間の研究の成果（研究テーマ「キャリア教育の視点を踏まえた学校システムの再考」）を発表し、直接的な外部評価を受ける機会をもちます。

（2）個別の教育支援計画の活用

福祉・医療・労働等の関係機関と連携し、個別の教育支援計画を活用した教育実践を行っています。個別の教育支援計画を作成するにあたっては、保護者をはじめ、子どもたちにかかわる全ての人々が集まりPATH（Planning Alternative Tomorrows with Hope：希望に満ちたもう一つの未来の計画）ミーティングを行い、夢を語り合いながら楽しく指導支援の方法について考えます。

（3）継続した一貫性のある系統的・組織的な指導

教育活動の全分野を通して、職業生活・社会生活に必要な知識・技能・態度が身につくように、「育てたいカー一覧表（※2）」に基づき小・中・高一貫性のある指導を系統的・組織的に行っています。

3 空間軸で「つなぐ」取組

（1）地域及び学校間交流

日頃より福祉の町「荒尾」という特性を生かし、地域の方々との触れ合いの機会を設けたり、学校間交流等を推進したりすることで「開かれた学校づくり」「共に育む教育」を実践しています。

（2）地域の特別支援教育のセンター的機能

地域の幼稚園や保育園、小・中学校、高校、関係機関との連携を図り、適時・適切・適度に支援を行い特別支援教育のセンター的機能を果たしています。夏季休業中には、セミナーや教育相談会、特別支援教育の基礎講座を開催しています。

（3）継続的な学校公開

継続的な学校公開を通して、本校教育活動の理解を進め、地域の方々と共にハートフルな社会の実現を目指しています。

(4) 環境への取組

「学校版環境ISO14001」に取り組み、主に電気・水道・用紙使用量やごみ排出量の削減を学校全体で心がけています。子どもたちは、「環境宣言☆5」を掲げ、節電、節水に取り組んでいます。

(5) PTAの「一人一役」活動

会員一人一人が1年間の学校行事やPTA活動の中で、「一人一役」の役割と責任を果たしながらPTA活動の一層の活性化と会員相互の親睦を深めます。

(6) 中国教職員の本校視察

平成23・25年度には、ユネスコ・アジア文化センター（ACCU: Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO）の人物交流事業における中国教職員招へいプログラムで、国内訪問校の1校となり、本校教育の現状について視察を受けるとともに、子どもたちや教職員と交流を行いました。

- 「環境宣言☆5」
- ① はみがきをするときは、水をとめてコップを使います。
 - ② ぞうきんやモップは、バケツの水であります。
 - ③ 教室をでるときは電気をけします。
 - ④ プレイルームを使わないときは、電気をけします。
 - ⑤ 帰るときは、パソコンをシャットダウンします。



中国教職員（本校会議室）



中国教職員と卓球交流

(7) 本校職員の中国訪問

平成24・25年度には、ユネスコ・アジア文化センターの人物交流事業の中国政府日本教職員招へいプログラムに本校職員が参加し、中国の子どもたちや教職員と交流を行いました（24年度：フフホト市、25年度：蘭州市）。プログラム終了後は、PTA研修や職員研修を実施し、中国の教育現状や風土・文化について理解を深める機会をもちました。



中国蘭州市の中心部を流れる黄河



黄河に初めて架られた鉄の橋（中山橋）



子どもたちが練習した「書」の説明（蘭州市の小学校）



全校生徒による体操
(蘭州市の中学校)



1クラス60数名で授業
(蘭州市の中学校)

4 おわりに

「特別支援教育に携わるものは、みな家族です」 これは、本校視察の折の中国教職員の言葉です。家族として、国をこえて子どもたちのためにつながりあいたいという熱い思いを感じることができます。つながりあうことは、人や地域（社会・国）の価値や良さを知ることになります。また、時間軸・空間軸のつながりを一層広く強くすることは、現世代および未来世代の子どもたちにとって、「生きる力」を支える知・徳・体のバランスのとれた成長となります。

これからも子どもたち・教職員・PTAが一体となり、かがやき、躍動感ある学校づくりをめざしていきます。

※1 ESD (Education for Sustainable Development) とは、持続可能な社会の担い手を育む教育であり、「つながり」を意識した取組が重要です。「ユネスコスクールガイドライン2012」「ユネスコスクールと持続発展教育(ESD)について2010」

※2 「教育くまもとNo. 64」参照